

平成27年度 冬季休業前集会（H27. 12. 16. 14:00）

- 先ほどの賞状伝達、受賞者に改めて敬意を表したい。
今回の基準：団体・個人共に「県大会以上・3位（優良賞）以上」
（陸上、剣道、水泳、硬式テニスも、合唱、文芸、写真、囲碁、科学の甲子園出場チームも）
賞状に届かなかったチームも個人も、自分の力を最大限に発揮しようと努力していることは本当に素晴らしい。
- 今年度は、4月以降、「考えること」の重要性について、パスカルの言葉などを手がかりに何度か話をしてきた。冬休みも、その絶好の機会。
- 3年生は、1月16・17両日のセンター試験まで1か月。と言うことは、2年生・1年生も残り1年1か月、2年1か月ということ。
129期生のセンター迄の頑張り、その後の2次試験直前迄の最後の粘り・伸びに期待したい。
- 1・2年生は、秋から1・2・3月にかけて、英単語・古文単語の語彙増強、徹底した地道なドリルによる数学の苦手分野の克服など、この時期にどれだけ問題演習をしてどれだけ力を蓄えるかが、センター試験、2次試験の成否の鍵となるし、ひいては、これからの人生の中で大切になる「学び続ける力」の土台を築く時期でもある。部活動も同じだということ
は言うまでもない。力を付けつつある君たちに花伝書の言葉を紹介。「十七八より」
…一期のさかひここなりと、生涯にかけて、能を捨てぬよりほかは、稽古あるべからず。ここに捨てれば、そのまま能はとまるべし。（世阿弥「風姿花伝」第一 年来稽古条々）

1333～1384南北朝時代 M42

<地道な努力はつらいもの、私のリフレッシュ法＝空を見上げること>

△ 3大流星群の一つ「ふたご座流星群」が15日未明、ピーク

- 明けの明星とオリオン座

△ 夜明け約1時間前の「明けの明星」

金星は最大でマイナス4.7等級。シリウス等明るい星が1等級、その100倍の明るさ。

△ 夜8時過ぎの冬の星座「オリオン座(*)」

オリオン座(*)は他の星を見つげる目印になる。シリウスはベルトのラインを南東へ拡張することによって見つかる。全天21の1等星の1つベテルギウスとおおいぬ座のα星シリウス、こいぬ座のα星プロキオンの3つの1等星で、冬の大三角を形成する。

風邪を引かない程度に真冬の星空を眺めて、宇宙の成り立ち、宇宙の中の地球と人間の存在の意味、などなどに思いを馳せるも良し、吉田一穂の詩「少年」の一節、「参星が来た！」を思い浮かべるも良し。
（今年は、9月頃からインフルエンザ流行のニュースが気になったが、その後は落ち着いている(会津で小流行)。しかし、用心を)

少年

『吉田一穂詩集』（岩波文庫）より

蟲の約束に林を渡る啄木鳥よ。
（鴨は谿の月明りに水浴してゐる）

オリオン
参星が来た！ この麗はしい夜天の祝祭。
裏の流れは凍り、音も絶え、
遠く雪嵐が吼えてゐる……

か ら まつばやし
落葉松林の隅に、何か獲物が陥ちたであらう。
弟よ、晨、雪の上に新しい獣の足跡を探しに行かう。

- △ 吉田一穂 北海道生まれ。吹雪のような読後感。言葉のダイヤモンドダスト。そんな表現がまさにぴったり来る不世出の「極北詩人」。
『少年』と題されたこの詩は文字通り一穂の少年期の追憶であり、一穂の原風景がある。それは、林、美しい冬の星座、遠くに吠える雪嵐である。未知の象徴である「新しい獣」に胸をはずませる少年期の思い出が、この詩には詰まっている。